

医療機関トレーサビリティ（美代班）・令和3年度第1回班会議 議事録

- 日時：2021年7月1日（木） 13：30～15：30
- 場所：国立国際医療研究センター 研修棟4階第一会議室 ※WEB会議併用
- 出席者（敬称略）：美代賢吾（NCGM）、稲場彩紀（GS1）植村康一（GS1）、大原信（筑波大）、折井孝男（NTT 東日本関東病院）、笠松眞吾（福井大）、近藤克幸（秋田大）、高橋弘充（東京医科歯科大）、高本真弥（NCGM）、武田理宏（大阪大）、藤田英雄（自治医大）、渡邊勝（宮城県立こども病院）、井高貴之（厚労省）、小川慎一（厚労省）
- オブザーバ参加団体（敬称略）：医機連（大畑卓也）、MTJAPAN(原山秀一)、@MD-Net（田村雄一郎）、JAHID(富木隆夫)、日本 SPD 協議会（菊地公明、武内昌平、大橋太）、JAISA(白石裕雄)、AMDD(河合誠雄)、JAHIS(新垣淑仁、友澤洋史、後藤孝周)
- ライブ配信による傍聴者 11名

議事詳細：

1. 昨年度の振り返りと今後の進め方

本研究班の昨年度の活動内容の報告と、今年度の取組み概要と分担、作成予定の手順書の構成案、直近の ToDo の共有を行った。（美代）※詳細は別資料参照

【コメント】

・NCGM では、手術室で出た材料の空袋のバーコードを読む際の、バーコードリーダーの反応速度、精度、使いやすさを比較する実験を行う予定。性能評価の方法についていい案があれば共有いただきたい。バーコードリーダーは、形態や読取り方式のバリエーションをカバーするため18種類購入している（一覧は別資料参照）。薬剤での実験も、高橋先生・折井先生ご協力のもと行いたい（過去に薬剤のバーコードで行った文献はある）。医療材料は大きさも様々なので難しいかもしれないが、リーダーの特性による差があるかを調べたい。協力いただける機関には貸出も行える。実験には人手がかかるので、各大学などでアルバイトの学生を集められないかと考えているが、もし、つてがあればご連絡いただきたい。

（美代）

⇒高橋先生と協力し、薬剤分野から既に挙がっている報告も踏まえながら取り組みたい。

（折井）

・今後、研究班内で発表する予定だが、自治医大では3月からRFIDを用いたカテーテル管理効率化の研究を行っている。全体として、一定の作業時間短縮効果がみられているが、徐々に対象品目を増やすにつれ、短縮効果が減少傾向にある。情報の過不足の検査などに時間がかかっているためと思われるので、詳細を確認し、改善策の検証も合わせて進めていく予定である。（藤田）

⇒現在 AMDD でカテや整形材料について出荷時のタグ貼付を推進する動きがあるので、その動向も見ながら進めていただけるとありがたい。（美代）

- ⇒現在は納入業者がタグ貼付を行っているが、出荷時から貼り付けられるようになれば、より対象品目を増やせると思われる。（藤田）
- ・大阪大学では小西医療器が手術室で使用する器材の管理に RFID を用いる取組みをしているので、本研究班での発表については小西医療器と前向きに検討したい。（武田）
 - ⇒ロッカー型のリーダーを使用していたり、有効期限管理の効率性まで考慮して針1本にもタグを貼っていたり、興味深い取組みであるので、期待している。（美代）
 - ・各国の電子カルテやナショナルマスタ等の状況について、各国の GS1 の協力のもと調査したい。（美代）
 - ⇒全体でアンケートが実施できるかは GS1 本部への確認が必要だが、どのようなかたちで協力できるか別途確認・相談させていただきたい。（植村）
 - ・スキャナや RFID の調査については協力させていただけると思うので、手順などについて是非ご相談させていただきたい。（JAISA 白石）
 - ・各団体の取組みを手順書に含めたいが、執筆していただだけそうか？（美代）
 - ⇒会員の SPD 事業者をお願いすることは可能。保険請求の観点を含めた手術室での使用器材の入力をサービスとして提供する SPD 業者もあるので、そうした事例を調査することが考えられる。また中国で SPD を展開した事例があるので、その状況も紹介できると思われる。（SPD 協議会菊地、武内）
 - ⇒各社の状況を調査して、その結果を紹介することは、時間をいただければ可能と思われる。（JAHID 富木）
 - ⇒JAHIS にも、医療現場の運用効率や医療安全の向上という観点から、出来る範囲でパッケージの電子カルテへの機能実装や望ましい使い方などを可能な範囲で是非ご提案いただきたい。（美代）
 - ⇒別途相談のうえ進めさせていただきたい。（JAHIS 新垣）
 - ⇒MTJAPAN では医機連と連携して流通委員会という組織として活動している。現在主に薬機法改正に関わる周知活動を行っているが、それを通じた医療材料における取組みを共有することを考えた。別途ご相談させていただきたい。（MTJAPAN 原山）
 - ⇒医機連では、バーコード表示法制化に向けた運用ルールの検討などを行っており、来年度にはマニュアルの作成にも取り組む予定である。どのような情報提供が望ましいかはまだ把握出来ていないが、協力させていただきたい。（医機連大畑）
 - ・医療機関でバーコード利用のためリーダーやシステムなどを導入しても、実際の現場では上手く利用できないという話も聞く。単なる機器の推奨だけではなく、導入を進める際のポイントや注意点も書に含められるとよいと考える。（稲場）
 - ⇒この点については機器の設定も絡んでくると思われるので、JAISA や AMDD からも知見を提供し、協力させていただく。（美代・JAISA 白石・AMDD 河合）
 - ・筑波大ではインプラント製品の情報を GS1 バーコードを使って電子カルテに取り込み、患者のカルテからいつ、誰がどこに埋めたかを表示させることや、データベースに連携して有事の際のトレースに役立てることを計画している。現在仕様策定中で、今年度中には実装予定。有用性が分かれば他の分野にも広げていくことを考えている。（大原）
 - ⇒是非事例として共有していただきたい。（美代）
 - ・効果についてはコスト削減だけでなく、医療安全面も強調できるといい。秋田大で滅菌器具のトレースを開始したときに、製品回収などの有事の際に、どの手術が関係しているかという情報も含め一気に追跡でき、有用性を感じたので、そのような点も含めて利点を提

示できればいいと考える。(近藤)

- ・病院で導入するにはコストメリットの提示が求められる。資金の回収期間や導入金額についても含めることが出来れば、財務面でも導入しやすくなると考えられる。(笠松)

- ・医療安全にも貢献できるというのは訴求ポイントとして大きく、重要である。また海外事例の調査は状況的に難しいかもしれないが、出来る範囲で収集していただければよい。(厚労省小川)

2. その他

- ・今年度から、委員として宮城県立こども病院の渡邊先生、GS1 Japan の稲場(前川委員と交代)が参加する。また、オブザーバー参加では、医機連からの参加者が、高田様から大畑様に交代となり、日本 SPD 協議会からの参加者は、北浦様から武内様に交代となる。

- ・次回は 8 月に開催予定。

以上